



平成22年度「福祉のまち推進センター活動セミナー」が昨年12月2日、区民センター区民ホールにて開催され、福祉関係者や町内会関係者207名の参加がありました。

昨年度に引き続き、地域での支え合いの仕組みづくりに焦点をあて、単位町内会における福祉活動と福祉のまち推進センターとの関わりについて基調講演と単位町内会実践者2名の発表がありました。

基調講演をされた札幌市ボランティア研修センターの川本運営委員長からは「その人のことを無条件に聞き、寄り添うことが人間関係をうまくさせる」

「関わりとは、その人の全部をやってあげることではなく、今できないことをお手伝いすること」等のお話がありました。

実践発表者1人目の手稲本町1条2丁目町内会横堀会長からは、手稲中央地区社協（福まち）が

行った「町内会における地域福祉活動のアンケート調査」をきっかけに、「町内会の果たす役割」や「町内会の魅力」を再考し、見守り活動など町内会全体として取り組んでいくことになったお話がありました。

また、2人目の発表者である前田地区 ほまれ町内会 南副会長からは、「孤立しないように仲間づくりという視点から地域活動に参加する」ことが大切であり、町内会として「住民同士が交流するまちづくり」を目指し、子どもと高齢者の交流行事等に積極的に取り組んでいる実践発表がありました。

参加者からは、「実践発表を参考にしたい」「一人では、何もできなくても、役に立ちたいという人が集まれば大きな力になる」等の声がありました。



平成22年度

手稲区福祉のまち推進センター活動セミナー開催

「単位町内会を基盤とした地域での支え合いの仕組みづくり」

～単位町内会と福まちの役割を考える～

- とき 平成22年12月2日(木) 13:30-15:40
- 場所 手稲区民センター2階 区民ホール

ちいきのふくしについて考えてみよう

こんなところがすばらしい

- ・地域内の諸団体の連携がとれている。
- ・町内会の福祉行事が多くて良い。
- ・独居老人に対する見守り事業が良い。

こうなったらいいのに

- ・町内会によるお助け隊(スポット支援)
- ・町内会やボランティア活動に若い人が参加して欲しい。
- ・町内会ごとくらいに簡単に集える場所があれば…。

こんなことが心配

- ・高齢化が進む中、どのようにお互いがケアできるか。
- ・災害時における援助活動の徹底。
- ・若い世代と高齢者が何でも話し合い協力できる町内会を作らなければ…。

私にもこんなことができるかも

- ・ご近所の方への声かけ運動・挨拶運動。
 - ・近所の子どもの見守り・子育ての協力。
 - ・町内会行事・ボランティア活動への参加。
- (意見の一例)

「ご近所パワーアップ事業」とは、地域の福祉課題の発見と今後の福まちのあり方について、地域の皆さんで協議検討を行い、地域の支え合い活動の更なる充実を図ることを目的としている事業で、手稲鉄北地区福祉のまち推進センターが平成22年度から23年度の2年にわたり、取り組んでいます。

この事業の一環として、「第1回ワークショップ」が昨年11月26日、鉄北コミュニティプラザで開催されました。

町内会、まちづくり協議会、老人クラブ、老人福祉センター、ボランティア、関係機関など、地域で活躍されている多くの方々が参加しました。

「手稲鉄北の特性と福祉のまちづくり」と題して、事業のアドバイザーである札幌国際大学スポーツ人間学部 飯田教授からの基調説明があり、その後、「手稲鉄北の福祉について話し合おう」をテーマにしたワークショップを実施しました。

手稲鉄北地区の「こんなところがすばらしい」「こうなったらいいのに」「こんなことが心配」「私もこんなことができるかも」と4つの視点から参加者各自が思いを付箋の紙に記入し、話し合い、最後は、7つのグループから発表をいただきました。

共通な思いや気がつかなかった点など、新たな発見につながる有意義なワークショップとなりました。

「第2回ワークショップ」を3月に開催し、皆さんからの貴重な意見を地域の福祉活動に反映させる検討を続けていきます。



手稲鉄北地区福祉のまち推進センター

ご近所パワーアップ事業

第1回ワークショップ開催

「手稲鉄北の福祉について話し合おう」

- とき 平成22年11月26日(金) 14:00-16:30
- 場所 鉄北コミュニティプラザ 2階ホール

